



鶏鳴けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「そちらに行ったとき、わたしは衰弱して
いて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でし
た」聖書(第1コリント書2章3節)

牧師 河合裕志

良寛和尚は「うらをみせ おもてをみせ
てちるもみじ」と歌った。裏も見せる。見
られたくない弱点も特に隠さない。ありの
まま。そんな和尚の生き方が思われる。

今のパウロが丁度そんな感じ。彼は自分
の衰弱ぶり、恐れ、不安を率直に述べてい
る。普通であれば秘めておきたいところだ
けれど、そうはしない。

パウロはとに角強い人だった。後にパウ
ロがユダヤの最高法院で取り調べを受けた
時、大祭司アナニアに向って、「白く塗った
壁よ」などと言いつけている(使徒言行録
23章3節)。上辺だけきれいに見える、腹
黒い人よ、ということか。こんな恐れ多い
ことは誰にでも言えるものではない。

そんなパウロだけれど、ここではまるで
違っていた。「そちらに行ったとき、わたし
は衰弱して」いた、と。アテネからそちら、
コリントに行ったとき、はなはだ衰え弱っ
ていた、と。体力、気力が失われていた。

何があった。アテネの伝道(使徒言行録
17章)が不成績だった。彼の体に突きさ
さった「一つのとげ」、病気が悪化した。旅
で体力を消耗した…。いろんなことが考え
られる。

また「恐れに取りつかれ、ひどく不安で
した」。コリントでも成績があがらないので

はないか。人々から嘲笑されるのではない
か。危害を加えられるのではないか。実際、
キリストを信じた会堂長ソステネは群衆よ
り袋叩きにあっている。

こんな衰弱、恐れ、不安の只中にいたパ
ウロがそこから抜け出すことが出来たのは
次のイエスの語りかけだった。「ある夜のこ
と、主(イエス)は幻の中でこう言われた。
『恐れるな。語り続けよ。黙っているな。
わたしがあなたと共にいる。だから、あな
たを襲って危害を加える者はない。この町
には、わたしの民が大勢いるからだ』(使
徒言行録18章9～10節)。

こうしてパウロは新たに勇氣と力を与え
られて福音を語り、信じる者が起され、コ
リント教会が形づくられることになる。

わたし達も時に衰弱し、恐れ不安に取り
つかれる。そうしたらこれを率直に口にし
たらいい。隠すことはない。知り合いは助
けてくれるかも。信仰者はこれに加え、神
に、キリストに祈って力を頂く。「わたしが
あなたと共にいる」、これは大きな安心感を
与えてくれる。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お折り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時